

「子育て座談会 ～今、子ども達は2006～」議事録

平成18年12月9日(土)開催

1. 開催主旨

ご存知のように、最近の新聞・テレビなどの報道では「いじめ問題」を筆頭に子どもにかかわる事件・事故が絶えず、全国的に深刻な社会問題と膨らんできております。

この様な社会情勢を背景に「子育て座談会 ～今、子ども達は2006～」と題した意見交換会を開催いたしました。久門校長先生や各学年の先生方に参加していただき、学校での子ども達の様子・先生方の教育に対する考えや、家庭での様子・子育てについて、学校・家庭・地域教育の在り方をじっくり話し合っただけでなく、交流を深めていきたいと思っております。

2. 会場・参加者等

会場；長尾公民館 1F 講堂

参加者；長尾小学校教員 6名

おやじの会 13名

P T A (お母さん方) 5名

長尾子供育成会 1名

城南区地域振興課 1名

参加者計 26名



3. おやじの会会長(井上氏) 開催挨拶

4. 司会進行 P T A 副会長 福田氏

5. 先生方自己紹介及び意見発表

(1) 久門校長先生

- ・ 筑前町の自殺問題報道がきっかけとなり、全国的に子どもの問題について広がりを見せている。
- ・ 学校内においても様々な角度から子ども達の様子をチェックしている。
- ・ 登校時に、正門・東門に立ち、毎朝子ども達の顔・所作をチェックしているが、遅刻・うつむき・挨拶が無い等、不安や問題を抱えている子ども達は外面の所作に必ず出てきます。サインに気づいてあげる大人の責任もある。
- ・ 近年、いじめのとらえ方が難しくなってきた(いじめの定義の幅が広がった)。
- ・ 最近の子ども達は、自分の考えをうまく相手に伝えることが下手である(コミ

コミュニケーション不足)。発表等の場を多く設けて、自分の考えを多様に表現させる練習が必要である。そのためにも親御さんには、授業参観等に極力参加していただきたい。

- ・ いじめの早期発見・対処も大事だが、日頃からの接し方が大事(未然に防ぐ)。
- ・ 最近では、学校外での交友関係からいじめに発展することも有る(塾、スポーツサークル等)。

(2) 重岡教頭先生

- ・ 朝 8:00~8:30 の間、職員室にて児童の出欠の電話番をしているが、1日に10件~20件の電話がかかってくる。
- ・ 特に月曜の朝が多く、理由としては身体的な理由(頭痛・腹痛等)と精神的な理由(学校に行きたくない、きつい等)がある。
- ・ 学校では“早寝・早起き・朝ご飯”を推奨しており、これを実行できていれば、精神的な理由による欠席はだいぶ防げるのではと思っている。
- ・ 深夜、子供を連れて飲食店等に行く親御さんを見かける。
- ・ どの学級にも大なり小なりいじめは有る(学校に行きたくない等)
- ・ 学校としては家庭訪問等にて指導をしている。
- ・ 現在でも保健室で1日を過ごす子ども達が4~5名程度いる。
- ・ 家庭での父親がどれだけ子供の事を知っているのか。(父親の役割の重要性)
- ・ 育児の手伝い、休日一緒に過ごす等、関わっているつもりだが、実は子供達の事をよく知らないのでは。

(3) 大屋先生 4年担任

- ・ 親御さん同士、親御さんと先生方とのコミュニケーションが大事である。
- ・ 孤立する親御さんを無くす。子供の為(必ず影響する)。
- ・ おやじの会には期待しております。

(4) 松村先生 4年担任

- ・ 4年生について
- ・ 自我が目覚める時期であり、衝突が多くなってくる。コミュニケーションのとり方不足、意思を伝えきれない、相手の意思を受け入れられない等。。
- ・ 懇談会では「子供達の行動範囲が広がってきて心配」「子供だけでスーパー等に行っている」等の相談が寄せられた。

(5) 古川先生 2年担任

- ・ 城南区の絵の仕分けを2年生で11校分仕分けの事ができた。
- ・ 子供に指導する際には、お母さんのような見方（こまごました事）、お父さんのような見方（だまってゴツンと！）を使い分けながら接している。

(6) 大曲先生 5年担任

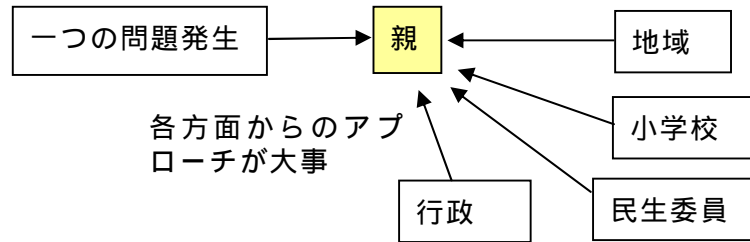
- ・ マスメディアへの露出が多くなったため、「いじめ」認識のハードルが低くなってきている。
- ・ クラス人数が多いため、なかなか全員にまで目が行き届きません。家庭や地域からの情報が必要。親と先生とのコミュニケーションが必須。
- ・ 思春期に入ると、グループに分かれたがる。
- ・ 「いじめ」はどこにでもあり、いつかは自分で解決していかななくてはならない。親が関われるうちに練習をしておくことが大事。
- ・ どんなに辛い事があっても「死ぬ」という選択肢はない！と指導している。
- ・ 教えるのは親の役目である。

6. 意見交換

様々な意見が出ましたので、一部を抜粋し下記に掲載いたします。

- ・ 不登校、学級に入れない子供については、学級全体で受け入れ体制を作るよう指導している。（学校より）
- ・ 学校は勉学する場であり、しつけの場ではない。親のしつけが緩んでいるのでは。（親御さん）
- ・ 近年、学校の先生が怒れない状況となっているのでは。（親御さん）
クラス人数が多いので、担当当初から厳しく指導している。厳しさの方法が大事であり、気をつけながら指導するしかない。不必要な厳しさはいらぬが、何もしないというのは無責任である（大曲先生）
- ・ 子供を守る事ばかりが親の役目ではなく、子供自身で解決できるよう促すのことが必要。（親御さん）
- ・ 地域等の活動に参加している親御さんの子供達には問題行動が少ないようである（学校より）
- ・ 最近のいじめは昔にくらべ陰湿になっている。（親御さん）
- ・ いじめが起こったときは早急な対処療法が必要であるが、その前に未然に防ぐための教育が最も必要である。（校長先生）

- ・ 城南区虐待防止ネットワークの平原先生が提唱している。



- ・ 先日「いじめ相談」のプリントが配布されたが、封筒に入れてなかった。高学年生は親に心配をかけないよう、渡していない可能性があるのではないか。配慮が必要だと思う。(親御さん)
- ・ 学校では教育相談日を月に一度設けている。積極的な利用をお願いしたい(学校)
- ・ 子供達の言葉遣いが悪い(ウザイ、キモイ等)。また言葉をなんでも短縮して話す。子供同士のコミュニケーションツールとしては必要であるが、しっかりした日本語も覚えた上で、使い分けて欲しい。(親御さん)
- ・ 親御さんには1年に1度でも良いので、学校行事に参加して欲しい。(学校)

7. まとめ

先生方のお話し、親御さんからのお話しで共通しているのは「コミュニケーション不足」という事ようです。皆さんそれぞれに子供達を取り巻く環境を憂慮しているのですが、情報の交換・共有ができていないために、なかなか問題解決に結びつかないという認識でおられるのではないのでしょうか。社会状況、地域環境は子供達にとって大変厳しくなっていてきます。地域・学校・家庭がコミュニケーションを円滑にし、情報を共有し、子供達が安全にのびのびと育っていける環境づくりが必要と感じました。当おやじの会もコミュニケーションを円滑にするための一役を担えればと考えております。

最後に久門校長先生のお言葉です。

「地域、学校、家庭が子供に接する場合(しかる場合) 基本的な方針がぶれないようにする事が大事です(子供達がとまどってしまう)。子供達が何でも話せる状況をつくりだせる様にしたいです」